

# デジタル化による業務効率化を目指す！ IT導入により“楽しい”町内会へ



錦ヶ丘九丁目自治会 会長 ふなこし 船越 ともりの 友典さん

## 2つのLINEを活用し 情報の共有化を図る

青葉区にある錦ヶ丘九丁目町内会は、158世帯、子育て世代から定年前の世代の住民が多い自治会です。年齢は40代から60代がメインなので、現役世代が多い地域です。そのため自治会として取り組んだのが組織のIT化です。

これまでは紙による回覧板や電子メールを活用し、会員への周知連絡を行ってきましたが、回覧板を見ない会員もいると同時に、各家庭への周知に一定の時間を要し、家に届いた時にはすでにその行事や申込期限が過ぎている場合もありました。また、電子メールにおいても緊急時の連絡が遅れてしまうことも多く、手軽に素早く意思疎通が図れる方法はないかと考えていた時に、役員の中からLINEを使ってはどうか、という提案がありました。

そこで、2年前から町内会活動でのLINEの試験運用を始めました。導入したのは2つのLINE。一つは手軽に素早く意思疎通を図ることができるLINEグループ。もう一つが活動報告や回覧板などを配信する公式LINEです。LINEを2つに分けた理由は、LINEグループでは、町内会活動に個人アカウントを使用することに抵抗がある方もいるため、個人アカウントや投稿が不特定多数に公開されない公式LINEを開設しました。自らインターネット上の公式LINE開設の記事や仕様を確認して開設。個人でテストや使用感を確認した後、役員のみでスマートフォンでスタート。その後、町内会全体に公開するというステップを踏んで開設しました。



公式LINEトーク画面

また、会員に現役世代が多いことから、仕事で役員を引き受けづらい会員に合わせ、Web会議を活用するなど会議出席が任意の役職を作ったり、公式LINEを活用して町内会サポーターの募集を行ったりと、町内会に参加しやすくする取り組みを行っていきたいと考えています。

## 紙媒体では実現できなかった 双方向の情報発信

現在、公式LINEの登録世帯数は、閲覧数から想定して62世帯と全体の約半数。やはりデジタルに不慣れな会員もいることから、現在、回覧板はデジタルと紙の併用で行っています。また、公式LINEを導入して町内会で双方向の情報発信をすると、清掃活動などに関する御礼や、ちょっとしたお問合せなどが届くようになりました。こうした役員と会員の双方向でのやり取りは、紙媒体ではできなかったことなので、これをきっかけに町内会が楽しいと思ってもらえる人が増えるといい、と導入のメリットを捉えています。

現在、LINEグループ、公式LINEのどちらも無料版を使用していますが、近年、LINE運営サイドの仕様変更に伴い、公式LINEについては有料プランへの切り替えを想定しています。費用については資源ごみ回収の収益などで賄うことで、会員の負担を抑えることを検討しています。

## さらなるIT化で “楽しい”町内会を目指して

こうしたLINEの活用のほかに、令和5年度には、会員アンケート用のGoogleフォームについて、会員向け公開情報のGoogleドライブで公開。役員内で協議を行い、導入に至りました。

町内会活動のデジタル化に取り組むことで効率化が進み、役員の負担軽減に繋がることを期待するとともに、今後はデジタル対応について特定の役員に偏らないよう、マニュアル整備や勉強会の実施などを考えています。こうした取り組みを通して、より多くの会員の方に、町内会への参加を通して人との関わりを楽しんでいただけるようにしたいと思っています。